

の上を越させる。左手に向かつて直角に右手が突き当って止まるのは、「終止」を意味するが、それを行き過ぎして、左手の上を越えさせるのは、即ち「余分」に出たことになる。

**編物** 両手の人差指を編物の針になぞらえて、毛糸を編む指先の運動。

**飴** 舌を口の中でねじらせて、片頬をふくらませて、人差指と親指で輪をつくり（他の三指は伸ばしたまま）その頬にぴったりとあてがう。頬ばって飴玉、その丸い飴玉が頬のこのところにあると云うこと。

**雨** **雨降り** 頭部のやや上辺りから、指頭を下に垂らした両手を下へ降す運動を二三度くり返す。雨の降る様を両手の指で表わしたものである。

**操る** 操り人形の糸を持つ心得で、交互に上下に操る両手の運動。

**怪しむ** 五指の指頭を上にし、掌を左に向けた右手の人差指を口唇に十字にあてがうと同時に、他の四指を折り畳み、小首をかしげ考える表情。「不思議」の手まね更に五指の指頭を集めた手で空間に？を書く。

**過ち** 間違ひ——悪るかった（御免御免）  
**謝る** 悪い——御免なさい。

**嵐** 風——雨

**争う** (1) 両手の人差指を剣になぞらえて、打ち合わせる指の運動。「剣撃」「戦争」「闘争」の手まねともなる。

(2) 両手の人差指を一文字形に横にして、互いに指頭の先を向かい合わせ、或る間隔を置いて交互に槍で突き合うような指の運動。「口論」「論争」「議論」の手まねともなる。

**改まる** **改める** 五指の指頭を前方にさし、掌を上に向けた左右両手を接近させて腕を

×字に交叉させる。右が左へ、左が右へと入れ替わる。即ち改まるのである。「変わる」

「交替」「交換」の手まねにもなる。

改めて 手についた砂を払い落すように両手の掌を互いに上下に叩きすり合わせる。「やり直し」の身振り。

凡ゆる いろいろ——凡て（一切、みんな）

在る 有る 右手の五指の指頭を上にし、掌を右前方斜めに向け、空間をおさえるようにさし出す。「そこに在る」と自然にさし出された手。運動競技で「セーフ」と片手をさし出すのと同じ要領。

○「山がある」山の手まねをしたその位置の空間をおさえるように掌をさし出す。

主<sup>かたじけなく</sup> 男性（親指）を少し高い目にさし上げる。

有難う 左腕（下胸部）を右手拳で叩いてから、片手で拝む。お骨折り（お世話）有難

うのことだが、一般に「有難う」と礼を云うのに通じる。

有様 五指の指頭を上にし、掌を前向けた両手で前方の空間に或る映像（状態形象）を模索する身振り。

歩く 指頭を下に向けた人差指と中指を両脚になぞらえて、交互に動かして、足を運ぶ両指の模倣運動。

アルバム 写真—帳

合わせる 五指の指頭を集めた両手を右左から接近させて、互いの指頭を付け合わせる。二つの物を附着すること。

周章てる 「焦せる」と同じ手まね。

哀れ 「悲しい」と同じ手まね。

憫れむ 哀れ——愛する。

案じる 「危い」「不安」「心配」と同じ手まね。

安心 胸に掌をあてて下へ撫で降す。「胸